

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201748		
法人名	株式会社 マザアス		
事業所名	マザアスホーム だんらん柏・酒井根		
所在地	〒277-0053 千葉県柏市酒井根21-6		
自己評価作成日	平成 26年11月17日	評価結果市町村受理日	平成27年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katgokensaku.jp/127/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成26年12月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、ご入居者様の入退去が三名ずつあり、昨年とはまた違った雰囲気になりなした。入居された方には、一日でも早く馴染んでいただけるよう、入居前から職員の担当を決めサービス計画書は基より、できるだけ情報を集め受け入れ態勢を整えてお待ちしております。重度化が進みしばらくたっていますが、より一層どんなことを望まれているのか感じ取るようにしています。家族会も外出の機会を増やし、イチゴ狩りや秋のピクニックにはそれぞれのご家族と共に楽しみいただきました。お元気な方には、その日のお天気を見て公園でのびのびとお散歩を満喫していただき、時には、個別での外食など気分転換に取り組んでいます。また、職員教育として身体介護のスキルアップを始め介護保険についての勉強会も行い高い出席率を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は家族との交流の機会を多くしており、いちご狩り、七夕まつり、近郊へのピクニック、ボランティアの宝塚ショー、クリスマス会など多くの行事を実施して家族の参加を得て、話し合いながらそれぞれの利用者の様子を伝えて家族との信頼関係を築いている。職員の研修では、本部及び外部での研修と、施設独自の研修を実施しており、排泄、食事、移動、ベッド介助などの研修により支援の質の向上を図っている。また、今年度は看取り支援を行っており、職員は初めての経験であったが関係者と連携を取って協力して対処している。摂食不良の状態で見守りと24時間連携している点や夜勤体制で2名にするタイミング、職員の感想では、湯船に入れてあげたかったなど、今後の支援の参考となる点をまとめている。支援に対しては家族から感謝の言葉が寄せられている。

家族の

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流を図り、気兼ねなく暮らせる第二の我が家」の理念の下、その人らしくアットホームな雰囲気での生活を支援しています。各ユニットの方針もあり「今、できる事、やりたいこと」を考え実行できるよう努めています	理念の実現を目指して、利用者が「今できること、やりたいこと」は何か考えて、編み物の毛糸を一緒に買いに出かけることや手芸の製作材料の提供により、充実して過ごせるように配慮をして支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動や文化祭での作品の出品など参加しています。散歩に出かけた時などの挨拶や隣の幼稚園児との交流もあります。	地域に新たに開設した地域密着型介護施設の運営推進会議に参加して、サービス提供の課題など話し合っている。地域の文化祭に絵画などを出品し、隣接の幼稚園のクリスマス会に招かれ折り紙をもらうなど積極的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	柏市内の専門学校の実習を受け入れています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催しています。町会長の出席もあり、地域の情報を聞くこともあります。今年開設された近くのグループホームの運営推進会議にメンバーとして出席し情報交換に努めています。	運営推進会議は計画通り行われている。施設から入居者の状況や敬老会などの行事報告と、今後の予定の音楽療法などについて話し合っている。今後は家族の参加者が更に増えることを期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の協力の下、グループホーム連絡会を立ち上げ、スタッフ交流会や研修会を行っています。年一回開催される、ふれあいの集いには市内すべてのGHご入居者、職員が集まります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者には、高齢者権利擁護専門課程受講終了とし、毎年、職員には基礎課程の受講を促し参加しています。2011年より玄関の施錠解除を行い、立ち上がり等注意が必要な方には常に見守りをしています。	本部研修の、「身体拘束について」「非薬物療法について学ぶ」など受講して基礎知識を学んでいる。職員の「自己チェックリスト」の結果で、「ちょっと待ってね」など言葉使いの課題を改善して、拘束しない支援に留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所独自の研修会を開いています。又、年数回、本部より巡視が行われたり、アンケートの実施などで常に自分自身を見直す機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度利用の方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時には、管理者もしくは職員が立ち会い、疑問点、不安に感じられることなどにお応えしています。契約時にも再度、納得が得られるよう説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談ボックスを設置していますが、今までに利用されてことはありません。家族懇談会や面会時に相談を含めた意見交換をしています。	施設で行う七夕、クリスマス会、お誕生会などの行事の際に家族と懇談会を行い、今後の行事予定、外部評価の内容、職員の紹介などの説明をしている。家族の個別の要望には施設長が話し合いをして必要に応じて支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングを行い意見交換の場としています。また、必要に応じて臨時で開催することもあります。ミーティングには、本部・運営課の課長が参加することもあります。	ミーティングでは、職員の意見により新しい利用者との人間関係についてトラブル防止のため席を離すなどの配慮をしている。また、初めての看取りの結果について、状況の対応と課題をまとめ今後の支援の向上に努めている。	職員を育成するために本部、外部の研修の他、施設独自の研修が実施されている。今後施設の研修に参加出来なかった職員も受講して、更なる支援の向上を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員は、年二回事業所独自のチャレンジシートに目標課題を記入し、目標の設定・達成を上司と確認する機会を設けています。非常勤職員にも面接を行い向上心が持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修には参加を促し、外部研修には希望者を募り、勤務時間の調整をしています。昨年より、酒井根独自の勉強会を立ち上げ、毎月実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での研修会や交流会への参加を促し勤務調整をします。また、法人内での研修会にて他事業所の職員との交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の抱えている不安や要望などを聞き受けとめる努力をしています。にゆうしょ前には、必要に応じて数回の面談を行い不安の軽減や信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時、また面会時にはご家族の心配事やご希望を納得いくまで聞く体制をとっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントを元に、本人や家族の要望を聞き、必要に応じて主治医・本部職員に相談し対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを探し、役割を持っていただくよう努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化や様子などは、面会時や必要に応じて電話で伝え、より良い対応を考えています。又、家族会などで様子を持って頂く機会を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの馴染みのものや写真を部屋に置き安心して暮らせるよう対応しています。又、個別で馴染みの場所への外出にも対応しています。	利用者が以前に行きつけていた所へ食事に行くことや、衣類を買い求めていた店に出かけるなど職員が一緒になり適切に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関われるよう席の配置を考えています。また、会話ができる方が一緒に過ごせるよう配慮するとともに、リビング内で孤立することが無い様雰囲気づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所内では、継続的なかわりが必要な利用者や家族には、退所後も相談や支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族の意向を把握し職員間で共有しています。又、伝えられない方には、望んでいるだろうと思われることを家族・職員と検討しています。カンファを行い職員からの意見も出し合っています。	アセスメントでADL、生活歴など23項目を確認している。意向については、本人の状況と気持ちでは「自分のできることはなんでもします」、家族の気持ちは「近くに子供がいるので安心して過ごす」など詳細に把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、生活環境、サービス利用状況の把握ができるよう入居までにアセスメントシートの記入をお願いしています。又、面会時にお話を伺うこともあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや介護記録の記入、申し送りにて状況把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートを元にミーティングやカンファレンス時に意見交換しています。また、それぞれの支援ポイントを活用し状況にあわせて本人・家族・主治医に意見を聞き、サービス計画書を作成しています。	6ヶ月の経過の中で計画の見直しをしているが、ソファで寝ている、食事が低下した、トイレが頻繁など、利用者の様子について職員の意見を聞き適切な支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護サービス経過記録に日々の様子やケアの実践、気づきを記入し、申し送りにて職員間で共有しています。支援ポイントにも変更等記入していきサービス計画の見直しに役立ちます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院が必要な方の通院介助、マッサージ、美容の手配をします。体調変化により対応の変更など職員間で話し合い、グループ内の他の事業所に相談することもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じてボランティアの協力を得ています。地域の文化祭や幼稚園の行事にも参加しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医による往診が月二回あります。本人・家族の希望で入所前の主治医に受診している場合は受診支援を行うこともあります。また、認知症専門医・歯科医の往診が受けられます。	利用者は協力医療機関をかかりつけ医としている。毎朝の定期往診があり、歯科医は週1回の往診がある。他の診療科目は家族対応ですが、無理な場合は職員が代行している。その結果は伝達ノート・申し送り等により情報共有している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医・看護師・薬剤師との連携もとれており、グループ内を巡回してくれる看護師に相談できる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、本人、家族と十分な話し合いと情報交換に努め、早期の退院に備えています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化が生じた場合、家族・医師職員で何度も話し合いを持ち納得のいく方針を共有しています。終末期や医療が必要になると協力医療機関とも連携し最後の生活が満足のいくものとなるよう対応しています。	重度化した場合は主治医が加わりカンファレンスを行い、状態の変化の都度、方策を家族と共有し対応している。そして職員・巡回看護師・医師・家族が協力し合い、今年度初めて看取りを行った。	毎月の事業所会議の中で、看取りに関するチームづくり、ケア、職員のメンタルケアをテーマにして話し合い、職員の精神的フォローをどう行うかについての取組を期待している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の初期対応ができるようミーティングなどで話をします。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を実施しています。近隣の協力体制については、入居者の配置図を町会長に提出しています。又、夜間は隣の小規模多機能施設と協力することになっています。	年3回の避難訓練を実施し、うち1回は消防署指導のもとで、非常通報の方法を職員各人に実地訓練した。また夜間想定で非常時の明るさ・非常灯の耐久時間等の確認をした。そして避難経路・避難場所を通行し実地確認をした。	夜間想定避難訓練を、隣接した同経営の小規模多機能事業所と一緒に協力しながら実施する取組を期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修は、新人研修から継続的に続けています。言葉かけについては、崩れやすいので特に注意しています。	県及び柏市主催のプライバシー保護の研修に毎年参加し、その内容を毎月の会議を通じて職員共有を図っている。また「虐待の芽チェックリスト」により言葉かけ、特に「大声」「ちょっと待って」等を使用しないよう職員は注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との何気ない会話から思いを感じ表現できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に合わせて、お一人おひとりのペースを尊重するようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や好みを尊重しその人らしい装いができるよう支援しています。外出時には、お化粧をするようにしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を考え作っています。献立は、季節に合った行事食を取り入れるようにしています。今は、お料理や片付けができる方が少なくなりましたが、できるだけ残存機能を生かすよう努めています。	主菜は業者より購入し、職員が中心になってその日の献立を決め、季節に合った食事を提供している。利用者は食事を運んだり、テーブル拭き、食器の片づけを手伝っている。また行事食として、おはぎ、ソーメン、芋煮等楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を一人一人に合わせてキザミ・ミキサーなどにして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをし、必要な方には介助します		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合った排泄介助を考えています。それぞれの間隔をつかみ、声掛け・誘導・介助と必要な支援を考えています	利用者一人ひとりの水分摂取量・排泄チェック表で排泄パターンを確認し、さりげない言葉かけでトイレ誘導している。入所時オムツ使用者がリハパンそして布パンになる等自立に向けた支援をしている。現在日中のオムツ使用者は一人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量のチェックと排便確認を行っています。便秘予防に食材の工夫や薬剤の調整を行います		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に添えるようにしていますが、体力的なことも考え、入浴できるように努めています。	週に2～3回利用者の希望と体調を考慮し入浴している。入浴前に体調不良の場合は足浴・清拭に変更している。入浴拒否については時間をずらしたり、入浴を悟らせない言葉かけ等工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠パターンを把握し、状況に応じて対応しています。夜間、不安な状態にある時は時間の許す限り付き添い関わるようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬を把握し、わからない時は薬剤師に尋ねるようにしています。特に薬の変更や臨時薬がある時には記録等に残し確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることは継続し、外食・買い物など外出をして気分転換に努めています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を希望されている方には職員が付き添い出かけています。又、イベントとしてピクニックやお買い物、季節のイチゴ狩りなど出かけています。車椅子利用の方が多いのでグループに分けての外出をしています。	殆どの利用者は外出可能で、天気の良い日は職員が1対1で戸外の散歩に出かけている。巡回看護師が手伝うこともある。また車椅子対応車を使用して、少人数でのピクニック・アンデルセン公園への外出等の支援もある。現地で家族が合流する取組もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族と相談の上、買い物に出かけます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話や手紙のやりとりの支援を行います		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝は、部屋の喚起を行い、毎日の掃除には声を掛け一緒にすることもあります。リビングやテラスには花を飾り、廊下には皆さんの作品やイベント時の写真を飾り、心地よく過ごせるよう心掛けています。	明るく清潔なリビングに、ゆったりした椅子が配置され回りの壁には利用者・職員の作成した花の飾り、絵、手芸品等飾られている。また廊下には、イベント時の利用者・家族と職員の楽しそうな写真、短冊の絵・折り紙・書道の作品が隙間なく並び、居心地良く過ごせる空間が広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者同士が話などをして過ごせるよう席の配置をしています。ソファやいすなどはその時の気分に合わせられるよう工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、備え付けのベッド・タンス以外で持ち込み自由となっています。馴染の家具、調度品などおいていただき安心して過ごして頂けるよう努めます。	居室内は利用者が持ち込んだ鏡台・チェスト・ソファ・テレビ・記念写真等使い慣れた馴染みの品が置かれ、落ち着き、安心できる居室となっている。そしてエアコンで適切な温・湿度管理がなされ、快適・安全に過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはプレートを付け、引き戸で開閉のしやすいドアにしています。居室には写真や家族会でご家族と作った表札を付けています。		